

日仏セミナー「地域資源管理と水文循環」開催

地域資源工学研究領域 水文水資源ユニット主任研究員 吉田武郎

2017年11月13日、フランスの国立環境・農業科学技術研究所(IRSTEA)から2人の研究者の訪問を受け、「地域資源管理と水文循環」と題したセミナーを開催しました。IRSTEAと農工部門はこれまで4回の訪問を相互に行っており¹、2017年3月に共同研究連携に関する覚え書き(MoU)が締結されています。

IRSTEAは農業地域における環境に関する研究を行う国立研究機関で、研究職・事務職を含めて約2,000人の職員がフランスの9都市に設置された研究センターに勤務しています。今回訪問した2人の研究者は、パリ郊外のアントニー研究センターにある流域水文研究グループに所属し、水文モデル開発、気候変動による洪水・水資源への影響評価、河川流量予測等の研究に携わっています。

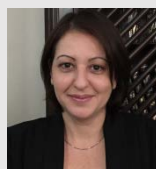
今回のセミナーは、IRSTEAと農工部門の組織的な連携を加速するための第一歩として開催されました。午前中に農工部門内の施設見学を行ったあと、セミナーには日本側から21名の研究者が参加して行われました。IRSTEAからの2件の発表に加え、農工部門からも5件の発表があり、それぞれに興味深い議論が展開されました。発表タイトルは以下の通りです(発表順)。

- *Feasibility for use of digested slurry by the pouring method in paddy fields of Southern Vietnam*, (ベトナム南部の水田における流入施用法による消化液の液肥利用可能性), 折立文子, 農工部門
- *Environmental DNA metabarcoding reveals better, the freshwater fish communities inhabiting Japanese rural areas*, (環境DNAが明らかにする日本の農村地域に生息する淡水魚), 小出水規行, 農工部門

¹参考メルマガ記事：

http://www.naro.affrc.go.jp/nkk/mail_magazine/back_number/055473.html#03a
http://www.naro.affrc.go.jp/nire/mail_magazine/back_number/062781.html#03b
http://www.naro.affrc.go.jp/nire/mail_magazine/back_number/072692.html#04c

訪問した研究者の顔ぶれ



Dr. Maria-Helena Ramos



Dr. Guiallume Thirel

- *Hydrological modelling for water management and climate change impacts*, (水管理と気候変動影響のための水文モデル), Maria-Helena Ramos, IRSTEА
- *Hydrology under change: an evaluation protocol to investigate how hydrological models deal with changing catchments*, (変化する環境下での水文現象：流域変化のモデル評価のための方法), Guiallume Thirel, IRSTEА
- *Economic and environmental effects of small-scale hydropower projects in Japan: evidence from interregional input-output analysis*, (日本における小水力発電プロジェクトの経済・環境評価：地域間産業連関分析から), 上田達己, 農工部門
- *A review and application of environmental tracer-based method for interaction between surface water and groundwater*, (環境トレーサーを用いた地表水-地下水交流現象説明：レビューと適用), 土原健雄, 農工部門
- *National scale hydrological model in human modified world -Development and perspectives-*, (人為的变化を受けた国スケールの水文モデル-開発と展開-), 吉田武郎, 農工部門

セミナーの終了にあたり、IRSTEA の Maria-Helena Ramos 氏からは、「研究交流が始まったときには長い橋の両端にいるように感じられたが、今は橋の真ん中で話をしているような気分がする。今後は具体的な研究テーマを設定してより深い研究交流に繋げていきたい」という挨拶がありました。

農工部門では、MoU をベースに今後も継続的な研究交流を続けるとともに、共同研究テーマの設定やそのための資金獲得に発展させていく予定です。



Maria-Helena Ramos 氏による講演



セミナー参加者の集合写真